

開聞岳の風

見事な円錐形の堂々たる山が突然目の前に現れた。その形から別名薩摩富士とも呼ばれている。鹿児島県薩摩半島の南端に位置する複式火山の開聞岳（標高 924m）である。山麓の北東半分は陸地に南西半分は東シナ海に面しており、日本国土最南端にある美しい山として国内はもとより世界的にもその名は知られている。

小説家でもあり登山家でもある深田久弥著「日本百名山」に挙げられている山であり、霧島屋久国立公園にも指定されている。

周囲に高い山がないため鹿児島市内から車で間もなくすると、突如美しい姿の開聞岳を見ることが出来る。南薩摩地方のシンボルともなっている。

以前、開聞岳近くの知覧という地を訪ねたことがある、ここは太平洋戦争末期に特攻隊で知られる航空基地があった所だ。そこに知覧特攻平和会館があり見学させて頂いた。ここ知覧特攻基地から出撃した戦闘機での死者は 439 人。知覧を飛び立つとまず日本を代表する富士さんに似た開聞岳へ進路を取る。二度と戻ることのない死への飛行である。

隊員の遺書が展示されていた。どれもこれも勇ましい決意が書かれていた。その中の多くに母への感謝の言葉、そして別れの言葉が私の胸を打った。涙なくしては読めなかった。今の平和な日本に生まれ合わせた私。先人の人達に限りない感謝の気持ちを捧げたい。撮影 2012 年冬

